

小学校における学校行事体験の有する発達の意義とその活動の在り方の心理学的検討

河本愛子(東京大学 大学院教育学研究科 大学院生)

■ 本研究の目的

日本の学校では、授業のみならず、文化祭や体育祭などの学校行事が一年を通して、ごく当たり前に行われている。学校行事は100年以上にわたり教師に根強く支持され、連綿と実践が重ねられてきた。現在では学校行事が児童・生徒の社会情緒性を伸長する上で重要であることが暗黙裡に前提視され、全ての児童・生徒の参加を要する活動とされている。ところが、**学校行事の機能に関する実証的知見は乏しく、その実施方法も実証的な意味では十分に考究されていない**。そこで、本研究では、**学校行事の機能と個人の発達に対する影響の過程解明**を目的に研究を行った。

その際、本研究では、①小学校の学校行事体験が“一定期間を経た後”個人に与える影響の回顧法を用いた検討、②個人の特性によって学校行事体験の影響過程にいかなる差異がみられるかに着目した検討、③児童の学年を考慮した小学校教師の支援方法の検討という3つの視点に着目し、以下3つの研究を行った。

■ 研究1：小学校の学校行事体験の発達の意義の検討：高校生を対象とした回顧的調査から

ある高校1校における2・3年生を対象に小学校で経験した学校行事の想起を回顧的に求め、小学校の学校行事への参加の仕方と、高校の学校行事への参加の仕方との関連を検討する質問紙調査、ならびに、高校生に意味ある体験として想起される小学校の学校行事体験を検討する面接調査を行った。質問紙調査の結果、高校生には、印象的な小学校の学校行事体験として、6年生で体験した学校行事、そして宿泊行事、運動会、学芸会が想起されやすいことがわかった。また、**小学校における学校行事への没頭の程度が、高校での学校行事の準備・練習にどの程度、没頭するのかに関連することが示唆された**。ただし、小学校の学校行事への没頭は、高校で実際にどの程度、準備・練習に関わるかという回数や時間とは、高校1年時に最初に高校で経験される体育祭での作業回数を除き、有意な関連がみられなかった。また、面接調査の結果からは、高校生がどのような小学校の学校行事体験を想起し意味づけるのかが明らかにされ、研究2の面接のインタビューガイド作成に活用された。

■ 研究2：アタッチメント特性の視座からみる小学校の文化的行事体験の発達の意義の検討

研究2では、学校行事として行われる様々な活動内容の中でも、学芸会や文化祭、合唱祭などの文化的行事体験に着目し、小学校での文化的行事への関わりが高校での文化祭への関わりとどのように関連しているかの検討を、個人のアタッチメント特性に着目した上で行った。研究2-1では、高校生を対象に質問紙調査を行った。その結果、おそれ型と拒絶型の個人は、安定型の個人と比べた場合、文化的行事に深く関与しがたい場合があることがわかった。また、**愛着スタイルによって小学校での文化的行事体験が中学、高校の文化的行事への関わり方に与える影響プロセスが異なることが示唆された**。また、小学校時、中学校時の担任教師の自律性支援の効果も異なる場合がみられ、たとえば、**とらわれ型は、他の愛着スタイルと比べ、小学校時の担任の自律性支援が大きいほど、小学校の文化的行事に傾倒し、活動集団に愛着をもって活動する傾向が強かった**。次に、研究2-2では、研究2-1と同じ高校の生徒を対象に、アタッチメント特性に特徴のみられる個人を中心に面接調査を行った。その結果、**安定型の個人は、積極的な意欲をもちながら小学校、中学校時の文化的行事に関わっていた一方、拒絶型、おそれ型の個人は、行事参加への経緯や意欲が消極的であった**。ただし、拒絶型の個人は、参加の動機が消極的であったとしても、学校行事に参加する中で、対人的な学びを得ていたようだった。

■ 研究3：小学校の学校行事における教師の関わり方の質的検討：児童の学年に着目して

研究3では、小学校の教師を対象に面接調査を行い、学校行事に教師が関わる際、どのような面での効果を意図して、どのような工夫を行っているのかの検討を、想定する児童の学年を分けた上で分析した。その結果、**集団の規律の構築や、児童の他者への意識、集団としての意識の醸成を行うにあたり、中学年以降の児童に対して、教師は、異学年との活動を利用して、児童への働きかけを行っていた**。また、**児童の自律性を支援する場合には、どの学年の段階においても、教師が意図的に児童同士の話し合い場面を設定し、そこで児童のアイデアや意見を汲み取りながら、学校行事の準備・練習・本番に児童の意見を活かしていくことに重きをおくことが示唆された**。

■ 今後の展望

本研究で明らかにされた知見を基に、今後は、縦断的な手法も用いながら、児童・生徒の個人特性を加味した上で、学校行事の意義ならびにそこでの支援法を考究していく必要があると考えられる。